



*「トトリ」は朝鮮語で「どんぐり」を意味します

第5号

つうしん
通信

<http://musyokanetaichi.blog.fc2.com>

kwangsin0322@gmail.com

0562-97-1815

ひとりひとりが
手をとりあって…



2012.6.20発行

4.6朝鮮高校無償化緊急シンポジウム報告

朝鮮高校が無償化から排除されたまま2年が過ぎようとしていた3月、正直なところ何度も何度も「適用か！」とぬか喜びをさせられ、判断保留のまま問題が長期化する中で、当事者である朝鮮学校関係者にも、そして共に闘う決心をしている私たち朝鮮高校無償化ネット愛知事務局にも、ある種の「マンネリ感」が漂っていました。

「裁判はさけられない」という現実の中で、朝鮮高校の生徒たちが、元気に自信をもって無償化問題に立ち向かい続ける体制を作る必要があるのではないか？朝鮮高校無償化ネット愛知としても、朝高生たち、また学父母、先生たちの率直な思いを共有し、今後の活動を考えていく必要があるのではないかと思っていました。

そこで、年度明けの早い段階でそのような機会を持つことを朝鮮高校側と合意しました。しかし、2月25日に集会と街頭宣伝を行なったばかりで、朝高生たちの意見を聞くことを中心にした「4.6緊急シンポジウム 朝鮮高校無償化を考える」と題した企画を打ち出しました。マンネリ感を打破するために、「そもそも無償化問題とは何か」という原点を高校生とともに考えてみたいと思ったのです。

基調講演を東京弁護団の一人、金舜植弁護士にお願いしました。ご自身が東京朝鮮高校を卒業していること、在日朝鮮人、朝鮮学校の権利に関わる仕事に携わってきた経験から、高校生たちにもわかりやすく、「無償化問題」についてお話してくださいました。「北朝鮮」という言葉が出れば「何でもあり！」という日本社会のひどい風潮の中で、この無償化問題を闘うことの大変さを踏まえ、それでも「正義は私たちの側にあるんです！」と会場にいた人たちに訴えかけました。金舜植弁護士の話を聞く高校生たちの真剣な眼差しは印象的でした。

続いて、愛知朝高3年の金将康君、李日華さん、オモニの朴華淑さん（通称キヤサリン）、鄭俊宣先生、弁護団から中谷弁護士、熊谷弁護士、そして金舜植弁護士の7人に壇上にあがっていただき、これまでの運動を率直に振り返り、そして、無償化問題をめぐって考えた在日朝鮮人社会、朝鮮半島の問題、日本社会の問題などについて、率直に意見を述べてもらいました。



フロアからも、高校生たちが訥々と言葉につまりながら朝鮮学校への思い、朝鮮学校をめぐる日本社会の言説への違和感を語り、オモニたちからも子どもを朝鮮学校に送る立場として、在日朝鮮人社会に望むこと、期待すること、さらには、オモニたちも力をあわせてこの問題を取り組んでいくべきだという意見が出ました。さらに、朝鮮学校の若い先生方からも、教員として子どもたちを闘いに参加させることへの葛藤や苦悩、それでも学校=「自分が最も自分らしくいられる場所」を守るために力を尽くしていくという決意が語られました。

さらに高校生たちは、「日本人にもっとウリハッキヨを知ってほしい。知ってもらうための活動が、無償化解決のために大事な一歩になる」「本当ならば、野田総理にウリハッキヨに来て見てもらいたい。そうすれば、無償化適用を妨げるものは何もないことがわかるはずだ」という声もあがりました。

ネットワーク愛知としては、こうした高校生たちのアイデアを最大限尊重しながら、今後の活動を展開していく思いを新たにしています。

その名の通り、「緊急シンポジウム」でしたので、全てがバタバタと決まり、多くの方々にご迷惑とご苦労をおかけしましたが、アットホームな雰囲気の中で、決して「よそいき」ではない、飾らない言葉で会場のみんなが意見交換できたことがよかったです。

結果は保留状態ですが、60年間朝鮮学校をつぶすことばかり考えていた日本政府がはじめて、朝鮮学校生を対象に国のお金（就学支援金）を支給しようとしたことに大きな大きな意味があります。その実現のために、共に力をあわせて頑張りましょう。

「正義は私たちの側にある！！」

（事務局長 山本かほり）

4月22日、ネットワーク愛知事務局長の山本かほりが研究代表の「科学研究費補助金 基盤研究C 「朝鮮学校における『民族』の形成、継承、変容」による名古屋大学でのシンポジウム「<多文化共生>論を問い合わせ～在日コリアンの視点から～」より、報告を一つ紹介します！

「<相互理解>の場としての朝鮮学校のために」 金泰植（獨協大学・聖心女子大学非常勤講師）



最初に僕の発表タイトル、「<相互理解>の場としての朝鮮学校のために」ってつけさせていただいたんですけど、タイトルよくないですね。「相互」って言葉を使うと対等な関係みたいですが、でも現状は全然対等ではないです。急いで送って、しまったと思ったのですが、対等な関係を望む「希望」と、現在の状況への「皮肉」が込められていると思ってください。

さて、二週間程前でしょうか。韓國の大邱カトリック大学で行われた多文化主義に関する学術大会に呼ばれて行きました。日本のカトリック系の大学でも教えていますが、大邱カトリック大学は、なんかとても本格的なんですよね。ゲストハウスに泊めて頂いて、一人なのにリビングと寝室の二部屋があるとても豪華な部屋だったんですけど、全ての部屋にキリストの十字架が掛けられていて慣れないんで落ち着かなかつたです。学術大会も「お祈り」からプログラムが始まります。懇親会の時も乾杯の前に「お祈り」、自分にとって貴重な多文化体験だったと言えます。

■多文化主義の類型

肝心の学術大会のテーマが「多文化主義の限界と代案」というものだったんですが、色々なことを学ぶことが出来ました。特に印象深かったのは、多文化主義の限界が様々な所で囁かれているが、それは本当に多文化主義なのか？という問いただす。同じような多文化主義の言葉でも、地域や時期によって内容は様々です。多文化主義の限界を言う前に、そもそもどのような文脈でそれぞれの多文化主義が使われているかを、丁寧に見る必要があるとの主張でした。ここでは江原大学校のハン・ゴンス先生の発表を手がかりに、会議で話された多文化主義の類型について簡単にだけお話をしたいと思います。アメリカの教育学者マクラーレンによる四つの類型を紹介されていました。日本がどれに当てはまるか、是非考へながら聞いてください。

まず、第一類型は「保守主義的多文化主義」です。これは主流集団が少数集団に「寛容」の次元から文化を許します。「いいよ、いいよ、違っても。うちら寛大だから」と言った感じでしょうか。先ほど「恩恵」という言葉を金東鶴さんが強調されました。この恩恵としての多文化の許容が「保守主義的多文化主義」と分類されるかもしれません。そして「保守主義的多文化主義」は、マジョリティ集団への同化が最終目標とれ、またあくまでも「葛藤の予防」のための多文化の許容が目指されると言います。

第二の類型は、「自由主義的多文化主義」です。自由主義者は同等な権利の実現のためには機会の均等こそが重要だと考えます。機会の均等はとても大事ですが、自由主義的多文化主義における所謂自由競争が本当の意味での機会の均等を保証するかは疑問です。何故なら主流文化の権威は固定されたまま、多文化がヒューマニズムの次元でのみ許容され、結局権力関係は維持されるからです。身近な例で考えると、愛知ハッキョの卒業生である鄭大世やSoftBankの孫正義など、近年世界で活躍する在日はとても多いですが、能力があれば在日朝鮮人でも活躍できる社会は、機会均等の社会とイコールでないと思います。「能力が無い」在日は往々にして差別されたままだからです。ここにこの類型の問題点がありそうです。

第三の類型は、「左派自由主義的多文化主義」と定義されています。これは文化的違いの尊重し、それぞれの文化の保護と尊重を主張します。しかし文化的差異の固定化に繋がる危険性が指摘されています。また、それぞれの違いに重きを置くことによって社会を破片化させるとの攻撃にもさらされています。もちろん対抗的にアイデンティティを立ち上げる必要はあると思いますが、一方であまり「朝鮮人」や「日本人」といった文化的アイデンティティを固定化してしまうと、ダブルもそうですし、例えば「朝鮮人らしさ」が賞賛され「朝鮮人なのに朝鮮人らしくないもの」などを排除してしまう危険性があると思います。純粋な文化など存在しないのです。

■マジョリティの「利益」を越えた多文化主義

このような三つの類型への批判を踏まえて、マクラーレンが第四の類型として提示されているのが、「批判的多文化主義」です。これは「抵抗的多文化主義」とも言われます。文化の多元性よりも、お互いに違う共同社会（コミュニティ）たちが、自分たちの速度に合わせて成長することの出来る空間を作り出し、保証し、激励することのできる共同社会を目指す多文化主義です。共同社会たちが既存の文化と相互作用し、その文化を豊富にしてくれるだけではなく、自らのアイデンティティが反映されたことを感じることのできる「新しい合意の文化」を作り出す、と説明されます。

やや難しいですか、いくつかポイントがあると思います。文化を不变な固定的なものだと考えない、それぞれが影響し合いながらそれぞれのアイデンティティが反映された新しい合意を作り出す、そういう多文化主義だと思うのですが、何よりも重要なのが「自分たちの速度に合わせて成長できる」という点だと思います。それぞれの国や地域の多文化状況は違いますし、一つの国や地域の中でも様々な共同社会は歩んで来た歴史も置かれている状況も違います。それぞれの状況と課題に合わせ、それぞれの速度に合わせて成長する。これはとても大事だと思いますし、在日朝鮮人にとってはハッキョこそが「自分たちの速度に合わせて成長することの出来る空間」の一つではないかと思います。

既存の多文化主義に対する批判から、マクラーレンの批判的多文化主義が提唱されていますし、現在多文化主義に対する批判は色々な所でされています。重要なポイントの一つは、主流文化が絶対的な地位を占めたままの多文化主義に対する批判が高まっているという点だと思います。第一、第二類型にあたる保守主義的多文化主義と自由主義的多文化主義がまさにこれに当たると思います。

ここで一つ強調したいのが、「国益」と「多文化主義」の精神は相反するものだと言うことです。相反してこそ多文化主義への批判を乗り越えることが出来ると思います。例えば難民条約の精神は「国益」に反する。難民を受け入れるのはコストがかかります。それでも難民の受け入れは大事だから積極的に受け入れる。何故ならそこに難民の人たちの人権があるし、正義があるからです。日本はなかなか難民を受け入れないんですね。「国益」が優先される多文化主義は、既存の多文化主義に対する批判に答えられない。ましてや、朝鮮学校や在日朝鮮人の存在が、日本の国益にとっても良いという発想は危険ではないでしょうか。

日本の「国益」にとって良かろうが悪かろうが、在日朝鮮人自身のために、そして正義と公平、人権のために権利は保証されるべきなのです。

はじめに述べたように、多文化主義はそれぞれの国で色々な形で語られます。韓国では主に「多文化家族」という言葉を用います。家族を単位で考える必要があるからとの説明を受けましたが、主に農村などへの結婚移住女性とその家族の問題が韓国の場合は大きな社会的な関心を集めているため、多文化家族という言葉が使われているようです。大邱での会議でこのような質問がありました。韓国の多文化家族政策は果たして多文化主義と言えるのか？答えはノーでした。何をもって多文化主義というかにもよりますが、経済的な格差を利用して外国人女性を結婚のために移住させる政策は、多文化主義に理念に反しているとの批判でした。

■日本における「多文化共生」とは

さて、それでは日本はどうでしょう？日本では、「多文化共生」という言葉を使います。このシンポジウムには「在日コリアンは多文化共生の範囲に含まれるのか」という問い合わせがあります。しかし、そもそも日本の多文化共生概念はなんなのかについて考える必要があります。このシンポジウムが名古屋大学で行われることにとても意味があると思います。何故なら愛知県にはトヨタの工場があり、多くのブラジル人の方が住んでいるからです。日本は労働力不足を埋めるために日系ブラジル人たちを積極的に受け入れました。それまで日本は単純労働者として移民を決して受け入れなかったのですが、1990年代以降「定住者」資格のビザを日系ブラジル人に対し与え、自動車工場の労働力としてあてました。そのような中で多文化共生概念が唱えられて来たと言えるでしょう。しかし不況でブラジル人たちの仕事がなくなります。呼ぶだけ呼んでいらなくなったら容赦なく切られます。

1990年代以降、多くのブラジル人たちが日本に移住することによってブラジル人学校もたくさん出来ましたが、それらに対する行政の支援は乏しく、日本のブラジル人の子供たちの就学率って非常に低いんですよね。

なので、そもそも在日コリアンが多文化共生に含まれるかどうか以前に、多文化共生概念から問わなければならないと思います。その典型的な例が高校無償化から多くのブラジル人学校の除外です。子供たちの学ぶ権利が本当に大事なら、全ての子どもが恩恵をさずかれる制度にすべきですが、そうはなっていない。何故なら国益のためにブラジル人を受け入れたからであり、ブラジル人学校支援はお金もかかるし国益に合致しないから。ここに日本の「多文化共生」概念のいかがわしさがあると思います。在日ブラジル人、在日朝鮮人、多くの異なる文化的背景を持つ人たちは、その人たちの人権と尊厳のために尊重されなければならないと思います。

■「北朝鮮」という思考停止のマジックワード

高校無償化問題と関連して気がつくことは、朝鮮学校側は民族教育の権利を主張し、弾圧側は北朝鮮との関係、公民化教育を問題視するという非常にいびつな構図の存在です。議論が込み合ってないんですね。でも、在日朝鮮人側がそうしか主張できない状況こそが問題だと思います。僕は、朝鮮学校は民族教育の場でもあり公民化教育の場でもあるとも思っています。

まず前提として、公民化教育が問題だと言うんですが、社会学的には近代の学校は全て国民化の装置と無関係ではないんですね。そして国民化というのは究極的には国家のために死ぬことを要請すると思います。イギリスなら女王陛下のために。アメリカでも星条旗と国家に忠誠を誓います。日本だって日本を愛する心を要請しますよね。愛國心を養うための装置が学校だと思います。もちろんその克服のための様々な取り組みがあり、代案学校とか、オルタナティブスクールとかもあるんだけど、程度の違いはあれ学校教育と国民化の装置は無関係じゃないと思います。

重要なのは、朝鮮学校が公民化教育をしているから問題なのではない。「北朝鮮」と関係があるから問題にされている点だと思います。日本における「北朝鮮報道」が、民族教育の権利としてしか権利を主張できなくしている点を看過してはならないと思います。事実「北朝鮮報道」はなんでもあります。「いわゆるロケットと言うミサイル」「人工衛星と言う名のミサイル」。日本語としておかしいですよね。去年金正日国防委員長が亡くなった時も、死亡説を唱えていた早稲田大学の某教授がしれっとテレビに出る。もうなんでもあります。彼はジャーナリスト出身とは言え学者なんだから、論理的な根拠の下で論を展開すべきだし、予測が外れたら何故外れたかを検証する必要がある。しかしそんなことしてませんよね。テレビに登場する「専門家」を見ていると、福島の問題の教訓が何も生かされてないんじゃないかと、この度の「ミサイル騒動」で思いました。

■朝鮮史の中の朝鮮学校

朝鮮学校を考えるためには、祖国の分断を経験しながら旧植民地宗主国に住む在日朝鮮人の歴史をしっかり知る必要があると思います。よく、朝鮮学校の問題は多文化主義ではなく植民地主義の問題として捉えるべきだという主張がありますが、多文化状況こそがまさに植民地支配によって生み出されたと言う点を忘れてはならないと思います。近代国民国家が拡張する中で、北海道、奄美や沖縄が日本に取り込まれ、さらに帝国主義へと進む中で朝鮮をはじめとしたアジアの国々が日本の一員となり、日本の多文化状況はさらに進みました。そして現在も新自由主義のなかで世界がグローバル化し、流動化し、多文化状況が様々な場で生み出されています。

その上で、朝鮮学校の公民化教育、そして所謂「思想教育」について少し述べたいと思います。金日成、彼は誰ですか？今年は太陽節100年で色々な行事が行われていて、Facebookなどで色々な記事や動画なんかも見ることが出来たんですが、朝鮮民主主義人民共和国の建国の父であり絶対的な象徴になっている金日成が何故英雄になったのか。それはもちろん国際政治や色々な力学はありますが、彼が抗日の闘志だったからです。反植民地闘争を行ったから金日成将軍が英雄になり、指導者の地位に就くことが出来た。そして今の金正日一金正恩体制に繋がっているという点を、一度しっかりと考えるべきです。

解放後、雨後の筈のように出来たとされる国語講習所を、朝聯が整備統合し、今の朝鮮学校の体系ができたと言われています。朝鮮学校が朝鮮民主主義人民共和国を支持するようになった背景には、1950年代に入り教育援助費と奨学金が送られて来た事実が強調されます。多くの在日朝鮮人が感動したのは事実だと思いますが、僕は根がもっと深いと思っています。例えば後に総聯の議長になったハン・ドクス、彼は炭坑でのストライキを主導したとされている人物です。朝鮮民主主義人民共和国を主導した勢力も、朝鮮学校を整備した勢力も、共産主義を掲げ反植民地闘争を行った同志なんですね。それに対し日本は植民者ですし、韓国は国際政治の中で親日派が多く居座った国です。反植民地闘争をしていた人間が朝鮮学校を整備したし、彼らにとって金日成将軍は同志であり、絶対的な指導者です。そのような一世たちの想いが今日の所謂「思想教育」に繋がっているという点は押さえないといけないと思います。

去年4・24教育闘争を記念するシンポジウムがちょうどこの場所で行われたんですけど、その時の一世のハルモニのスピーチがとても衝撃的でした。そのハルモニは学校閉鎖令の写真、怒から警官が女の子をつまみだしているあの有名な写真の少女だったハルモニですが、去年この場で堰を切ったように金日成主席への想いを吐露しました。伊勢湾台風が来て同胞たちが家も何もかも失った時に、祖国に帰国し祖国で新しい朝鮮の建設のために一緒に働くと言ってくれたと。一世たちが祖国への想いを口にできない今の日本の状況、4・24の記念シンポジウムの場でやっと涙を流しながら想いを吐露できる状況と言うのは、異常と言わざるを得ません。朝鮮学校を守って来た人たちの想い、そして今学校に通っている子供たちと保護者、先生たちの想いこそが大事にされるべきだと強く思いました。

■「素晴らしいから認められるべき」、ではなく

もちろん、朝鮮学校に変化が必要ではないという話ではありません。僕も朝鮮学校に通ったので、思うところはたくさんあります。しかし言いたいのは、没歴史的に批判をするなということです。同時に、朝鮮学校は、日本社会がなかなか変わらないのに対し、変化しています。歴史教科書などでは、南北両方の歴史を教えるようになり、日本社会についてもしっかり教えます。その意味で、朝鮮学校の教育は日本と南北朝鮮よりも進歩的な側面を持っていると思います。なので朝鮮学校には「国民化の装置」としての学校を越える可能性を秘めていると思っています。一方日本の教科書は、慰安婦問題を教えますか？現代史をしっかり教えますか？朝鮮学校の教科書の内容を問う前に、日本の教科書を問うべきだと思います。ましてやお金を武器に朝鮮学校を恫喝することは、けっして許されないと思っています。

民族教育の場であれ公民化教育の場であれ尊重されるべきです。総務省による多文化共生の定義にも、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係」って表現があります。国の違い、政治体制の違いも認められるべきなのに、北朝鮮だから許されない、この状況は異常だと思います。北朝鮮はひどい国だからという人もいます。僕はアメリカもイギリスも日本も十分「ひどい国」だと思います。

最初にも言いましたが、相互理解という言葉は適切じゃないです。何故ならお互いが対等な立場でないからです。朝鮮学校は絶えず日本社会にその存在を脅かされてきました。学校閉鎖令、外国人学校法案、助成金差別、右翼の街宣、生徒たちへの嫌がらせなど。しかし常に「対立の場」であっただけではありません。圧倒的な非対称性はありますが、その中で日本の学校との様々な交流や朝鮮学校を支える会などの取り組みもあり、実際、自身が関与する岡山でのイベント「ダイアローグ」なんかは、統廃合で使われなくなった朝鮮学校の旧校舎で芸術発表をしたり、朝鮮学校と日本学校の元校長先生同士の対談をしたりと色々な取り組みをしています。そして今日このシンポジウムを共催しているUSMも素晴らしい活動をされています。

このように見ると、朝鮮学校を通し、在日朝鮮人と日本人が出会い繋がる場が作られると思っています。高校無償化から未だに除外されている圧倒的な現実はありますが、ウリハツキヨ／朝鮮学校がどのような出会いの場となるかは、一人一人の実践にかかっています。

最後に、卒業生の一人としても言いたいのですが、「朝鮮学校素晴らしい論」は疲れます。相対的に素晴らしい面もあるかも知れませんが、駄目な点もあります。自分自身怖い先輩たちのヤキなんかもありましたし、愛知のハツキヨに実習に来た時も、色々ありました。「素晴らしいから認めよう」論は、「素晴らしいから認めない」論にも繋がりかねません。良くても悪くても、国益にならなくても、みんなが尊重されるべきだと思います。以上です。ありがとうございました。

シンポの詳細はUSMのブログにアップされています。ぜひご覧下さい！
<http://usm-aichi.blogspot.jp> (USM愛知で検索)

力を合わせて頑張ります！

朝鮮高校無償化ネット愛知 事務局メンバー紹介 その1



熊谷 考人

事務局書記／弁護士

今後、訴訟に移行した際には、当事者、ネットワーク愛知、弁護団全員の熱い思いを裁判所に感じてもらう必要があります。ネットワーク愛知事務局・弁護団員として、熱い気持ちを持って、頑張っていきたいと思います！

裴明玉

共同代表／弁護士

韓国学校、朝鮮系インターナショナルスクールが無償化されたのに「朝鮮学校はダメ」というのは明らかな政治的差別。国が分断されようとも、DPRKと日本が仲が悪かろうとも、自国について学ぶのは朝高生の権利です。権利を実現する道は主張し続けること。力を合わせてがんばりましょう。



韓基徳

「ご意見番」／NPO法人三千里鐵道

一同胞としては朝鮮学校に言いたいことは山ほどあるが、朝鮮学校に対する無償化の適用除外は、差別という次元ではなく、全体主義による少数者迫害と捉えるべきものだ。これを看過することは将来に大きな禍根を残すことになる。一人間として、立場を異にする同胞として力になりたい。

辛和美

事務局員／オモニ会OG

ウリ ハッキョをこよなく愛する一人の人間として、子供たちの明るい未来のために今自分が出来る事を精一杯頑張りたい！



許淑禮

事務局員／愛知朝鮮中高級学校オモニ会

この世に生を受けたすべての命あるものにはオモニがいます。オモニと呼ばれ2年がすぎようとしていますが子供を応援しない日は一日もありません。これからも常に応援団長であり続けます。

金景愛

事務局員／東春朝鮮初級学校オモニ会

若い世代のオモニを運動の現場と繋げるために尽力したいと思います。1・2世の先輩たちが困難な中で道を切り拓いてきたように、わたしたちも自分たちの問題を傍観せず、自分たちの力で乗り越え、新しい時代をつくっていきましょう。



元美華

事務局員／愛知朝鮮中高級学校オモニ会副会長

日本社会の中で自分が「朝鮮人」であると、誇りと自信に満ちあふれた学生たちに私達が出来る事は何があるだろうと常に考えます。

社会の不条理に、不平等にも負けずいつも笑顔を絶やさず頑張る学生の未来のためにも無償化実現のため手を取り合って共に頑張っていきたいと思います。



吳炳佑

事務局員／愛知朝鮮中高級学校校長

朝鮮高校無償化適用のために力を貸してくださいる皆様方に感謝です。わたしたちも学生の未来のために今後ともがんばっていきますので、よろしくお願ひします。

金鐘日

イラスト、漫画／愛知朝鮮中高級学校教員

朝鮮学校無償化制度から除外したまま放置しておくべきではない。これ以上、生徒たちを政治に翻弄させられないように、なんとかしなければ！



尹光信

事務局次長／名古屋朝鮮初級学校校長

朝鮮学校を取り巻く環境は「無償化」制度実施以前よりも悪化します。日本に定住する在日コリアンとして民族的アイデンティティを育み、母国と日本、世界で活躍する人材を育成する民族教育を日本の皆さんにアピールして行くことが必要です。子どもたちの明るい未来のために頑張ります。

李博之

会議議事進行、学園広報／愛知朝鮮学園理事

民族教育の歴史と現在をいかに知らせていかか、そして私たちのネットワークをいかに拡げていけるかが無償化実現のポイントであると思っています。強靭さとしなやかさを兼ね備えた活動に努めています。

子供たちのため未来のために、一人ひとりの知恵と力が結集され、最大限に発揮されるよう共に頑張っていきましょう！



原科浩

事務局員／大同大学教員

白黒はつきりさせないでずるずると引き延ばす、日本政府の卑怯なやり方は絶対にゆるせない。かつてこれほどに人の心を傷つける差別があったでしょうか。

蔡一恵

事務局員／主婦、元朝鮮学校教員

今まで朝鮮初級学校とのかかわりが多かったのですが、この度高校と積極的にかかわるようになり、嬉しく思っています。小さな力ですが、役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。



小野政美

全国連絡会／愛知県小学校教員

2010年4月に「朝鮮高校無償化ネットワーク愛知」の準備会立ち上げメンバーの1人として、ネットワーク結成を呼び掛けてきました。

特に、日本人に対し、無償化問題は日本の植民地支配責任・戦後責任の問題としてアピールします。



山本かほり

事務局長／愛知県立大学教員

この問題がこんなに長引くとは思っていなかったのですが……。でも、朝鮮学校だけ排除するなんていうことは絶対に許してはいけない！ そう思い続けています。当事者の思いを大事にしながら、最後まで頑張ります。

ウリ学生の思い



李日華

愛知朝鮮中高級学校3年生

無償化闘争はじめてはや3年という月日が経ちます。

3年目となる今現在も無償化はいまだ実現されていません。

思い返せばこの2年間それこそ雨の日も風の日も、照るつける暑さも、凍えそうな冬の日も街頭に出て宣伝活動、ビラまき、緊急集会など何度も行つてきましたが、未だ政府は私たちの声を聞こうともせず、色々な事を口実に先送りされ私たちの心は不安でいっぱいになります。

4月6日高校無償化適用のためのシンポジウムが行われ、私はチャンガン君と一緒に初めて舞台に上がり発言をしました。

その場で私は特に弁護士の先生、オモニ達の発言を聞いて、私たちの考えが間違ってなかっただということ、また学ぶ立場にあり権利のある私たちがやはり先頭にたって闘わなければいけないということを強く思いました。

正直街頭に立ち、ビラをまき、理不尽な言葉ももらいながら活動するのはつらいですしやりたくないです。でもこの闘いの中心にいるのは学生だし、差別の対象であるかぎり声をあげて戦わなければならないと思っています。

これから裁判も念頭において闘わなければならぬと聞いて不安も多いですが、過去私たちのために闘ってくれたハラボジ、ハルモニ、アボジ、オモニ達のように今日は私たちが未来の為に、弟、妹たちのために団結して闘っていこうと思います。

僕が中学3年の時に高校無償化制度が生まれました。

当時僕はそれについて単純に学費が安くなり親に掛る負担も少なくなりとても良いことだと思っていました。

しかし、中級部を卒業し高級部に上がる時当時の内閣総理大臣が朝鮮学校だけ無償化から除外すると報道するのを見て正直「なぜ？」という思いと怒りがこみ上げてきました。

けれどこういった現実を受け入れ高1から当時の先輩と共に無償化適用のための運動を行ながら、街頭宣伝での出来事がとても印象にあります。

ビラ配りをしながら日本の方の協力を得ようと懸命に訴え、ウリハッキョの現状を解ってもらおうと話もたくさん聞いてもらいました。

それでも僕たちの話を親身に聞いてくれる方もいれば、関心さえ持ってくれない方もたくさんいました。それでも僕たちのために一生懸命活動してくれる同胞や日本の方、そして学校を作り守つてくれた1世のハラボジ、ハルモニの思いをいつも忘れず最後まで闘っていこうと思っています。

これから活動について僕は日本の方ともっと交流を深めることができ前進につながると思います。僕たちのことをもっと日本の方々にわかってもらうのが大事だと思うのです。

またそのためにはまず僕自身の団結、心を一つにすることが必要だと思っています。



金将康

愛知朝鮮中高級学校3年生

新しい弁護団の先生を紹介します！

矢崎暁子弁護士



これまで「在日朝鮮人差別は許されない」とわかったふりをしながら、実は差別の実態をほとんど知りませんでした。むしろ、知ろうとしてこなかったと自戒しています。このままではいけない、自分もこの根深い差別に正面から立ち向かっていかなければ、という思いで無償化弁護団に加わりました。これから弁護団や無償化ネットでの活動の中で朝鮮学校のことを学びつつ、みなさんと一緒に全力で闘っていきます。よろしくお願ひします。

高橋直紹弁護士

私は、今まで他の弁護士よりも少しだけ子どもの事件を多くやって来たように思います。また、自分の育ちの中でも在日朝鮮人の人たちとの関わりも、意識的か否かはともかく、比較的あったと思います。そんな在日朝鮮人の子どもたちが政治的な理由で差別されてしまうことはどういうことなのか・・・まだまだ勉強ですが、一緒に考えていくべきだと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

朝鮮高校に差別なく高校無償化適用を求めるネットワーク愛知 会則

第1条（名称と所在地）

本会は『朝鮮高校に差別なく高校無償化適用を求めるネットワーク愛知』と称し、事務所を豊明市栄町南館55番地に置く。

第2条（目的）

「高校無償化」からの朝鮮高校排除に反対し、朝鮮高校への「高校無償化」を実現することを目的とする。

第3条（活動と事業）

- 本会は、この目的達成に向け次のような事業と活動に取り組む。
- ①日本政府・文部科学省および関係機関、議員などへの要請
 - ②署名、街頭宣伝、集会・ソボゾクム、学習会、交流会等の開催
 - ③本会の目的達成のための裁判支援
 - ④会報の発行とブログの開設などの広報
 - ⑤立場・意見の違いを乗り越えた多彩で広範なネットワークの形成
 - ⑥本会の目的達成に関わる諸事業

第4条（会員）

本会の会員は本会の目的に賛同して加入した個人と団体であり、個人・団体にかかわらず互いに對等・平等である。

第5条（役員）

本会には共同代表若干名、事務局員若干名を置く。

第6条（事務局会議）

本会には共同代表と事務局員で構成する事務局会議を置く。
事務局会議は、前第3条記載の活動について、協議し、決定し、執行する。

第7条（財政）

本会の財政は会費および賛助金（カンバ）、その他の収入でもって充てる。
会費は年間一口1千円とする。
会計監査を置き、会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第8条（付則）

本会の会則は2011年 4月 1日より執行される。

無償化ネット愛知 会員募集

ひとり年間1000円／一口から

【郵便振替口座】

加入者名：朝鮮高校無償化ネット愛知
口座番号：00810-9-198143

朝鮮高校無償化ネット愛知事務局連絡先

〒470-1168

愛知県豊明市栄町南館55

学校法人愛知朝鮮学園内

朝鮮高校無償化ネット愛知

Tel : 0562-97-1815 Fax : 0562-97-1829

e-mail : kwangsin0322@gmail.com